

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成22年11月調査結果

現在の景気の現状判断は、9月より0.9%悪化の31.8%と、引続き厳しさが少し強まる判断となっています。

次に1年前と比べた場合は、9月と比べ2.6%悪化し38.5%と厳しい状況に戻る判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合も、9月に比べ4.4%悪化の38.5%と、厳しい状況に戻る判断となっています。

3～6ヶ月先の景気の先行き判断は、9月と比べ2.4%戻して、37.1%と厳しい状況が少し緩む予想となっています。

◎全体的には、エコカー補助の終了、円高に加え、エコポイントの半減等の懸念材料から不安がさらに広がり、消費の低迷や低価格志向に拍車がかかる状況となっているものと思われま。また、雇用についても不透明感から影響が出ているものと考えられます。

なお、景気は、踊り場入りの状況が続いているものと思われま。

平成22年12月8日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は12月7日まで)

○有効回答率

82.2% 有効回答客体 37名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 D I 値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	
調査結果	8	9	9	10	9	
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0	
各DI値	17.8	15	10	5.6	0	
DI値(合計)	48.4			⇒	ほんの少し景気が後退している	

となります。

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、9月より0.9%ポイント悪化の31.8%ポイントと、厳しさが少し強まる判断となっています。

内訳では、家計動向関連の小売関連で5.3%ポイント改善し25.0%ポイント、サービス関連も8.4%ポイント改善し33.4%ポイントと戻し非常に厳しい状況を脱しましたが、飲食観光関連は9.3%ポイント悪化し38.7%ポイントと厳しい状況に戻る判断となっています。

また、雇用関連でも、9月より7.1%ポイント悪化し32.2%ポイントと、厳しい状況が強まる判断となっています。

表1 11月構成比

	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	2.7	2.7	32.5	43.2	18.9	0.0	31.8
家計動向関連	3.3	3.3	30.0	43.3	20.0	0.0	31.6
小売関連	0.0	0.0	15.4	69.2	15.4	0.0	25.0
飲食観光関連	9.1	9.1	27.3	36.3	18.2	0.0	38.7
サービス関連	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	33.4
雇用関連	0.0	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0	32.2

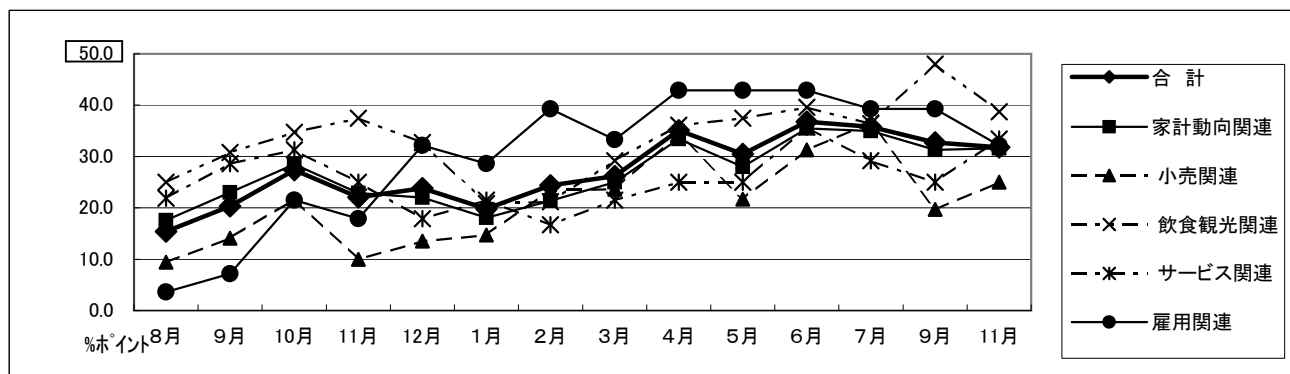
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2010	4	0.0	16.2	24.3	37.9	18.9	2.7	35.1
	5	0.0	7.3	29.3	41.5	21.9	0.0	30.5
	6	0.0	15.8	36.8	26.3	21.1	0.0	36.8
	7	0.0	10.8	37.9	35.1	16.2	0.0	35.8
	9	5.1	5.1	18.0	59.0	12.8	0.0	32.7
	11	2.7	2.7	32.5	43.2	18.9	0.0	31.8
	(前月差)	(-2.4)	(-2.4)	(14.5)	(-15.8)	(6.1)	(0.0)	(-0.9)

表3 D I 値の推移

	2010年							(前月差)
	4月	5月	6月	7月	9月	11月		
合計	35.1	30.5	36.8	35.8	32.7	31.8	(-0.9)	
家計動向関連	33.4	28.0	35.5	35.0	31.3	31.6	(0.3)	
小売関連	34.4	21.7	31.3	36.6	19.7	25.0	(5.3)	
飲食観光関連	36.1	37.5	39.6	36.4	48.0	38.7	(-9.3)	
サービス関連	25.0	25.0	35.7	29.2	25.0	33.4	(8.4)	
雇用関連	42.9	42.9	42.9	39.3	39.3	32.2	(-7.1)	



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、9月と比べ2.6%ポイント悪化し38.5%ポイントと3月以来の厳しい状況に戻る判断となっています。

内訳は、家計動向関連の小売関連で5.8%ポイントと改善し30.8%ポイント、サービス関連は7月から変わらず29.2%ポイント、飲食観光関連は13.2%ポイント悪化し41.0%ポイントとやや厳しい状況の判断となっています。

また、雇用関連は、9月より3.6%ポイント下げて57.1%ポイントと引続き回復を示す判断となっています。

表1 11月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	2.7	16.2	27.0	40.5	13.5	0.0	38.5
家計動向関連	3.3	6.7	30.0	43.3	16.7	0.0	34.2
小売関連	0.0	0.0	30.8	61.6	7.7	0.0	30.8
飲食観光関連	9.1	18.2	18.2	36.4	18.2	0.0	41.0
サービス関連	0.0	0.0	50.0	16.7	33.3	0.0	29.2
雇用関連	0.0	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	57.1

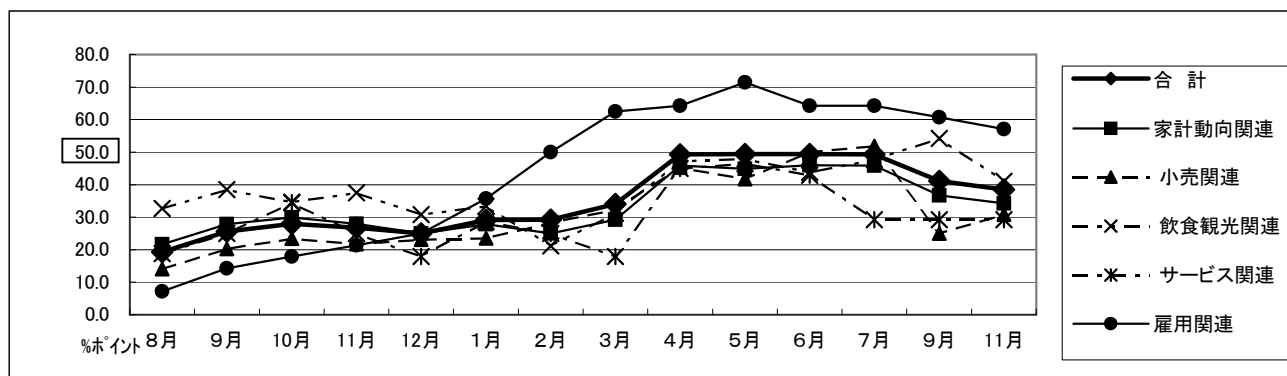
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	4	5.4	27.0	37.9	18.9	10.8	0.0	49.3
	5	2.4	26.8	46.4	14.6	9.8	0.0	49.4
	6	2.6	36.9	26.3	23.7	10.5	0.0	49.4
	7	0.0	35.1	37.9	16.2	10.8	0.0	49.3
	9	7.7	10.3	38.5	25.6	17.9	0.0	41.1
	11	2.7	16.2	27.0	40.5	13.5	0.0	38.5
	(前月差)	(-5.0)	(5.9)	(-11.5)	(14.9)	(-4.4)	(0.0)	(-2.6)

表3 D I 値の推移

	2010年							(前月差)
	4月	5月	6月	7月	9月	11月		
合計	49.3	49.4	49.4	49.3	41.1	38.5		(-2.6)
家計動向関連	45.9	44.9	46.0	45.9	36.7	34.2		(-2.5)
小売関連	45.3	41.7	50.0	51.9	25.0	30.8		(5.8)
飲食観光関連	47.2	47.9	43.8	47.7	54.2	41.0		(-13.2)
サービス関連	45.0	46.4	42.9	29.2	29.2	29.2		(0.0)
雇用関連	64.3	71.4	64.3	64.3	60.7	57.1		(-3.6)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、9月に比べ4.4%ポイント悪化の38.5%ポイントと、厳しい状況に戻る判断となっています。

内訳は、小売関連で0.9%ポイント上げて36.6%ポイント、サービス関連も4.2%ポイント上げて37.5%ポイントと改善し、飲食観光関連で13.2%ポイント下げて41.0%ポイントとやや厳しい状況に戻る判断となっています。

また、雇用関連は、9月より7.1%ポイント悪化し39.3%ポイントと厳しい状況の判断となっています。

表1 11月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	10.8	45.9	29.7	13.5	0.0	38.5
家計動向関連	0.0	13.3	43.3	26.7	16.7	0.0	38.3
小売関連	0.0	7.7	46.2	30.8	15.4	0.0	36.6
飲食観光関連	0.0	27.3	27.3	27.3	18.2	0.0	41.0
サービス関連	0.0	0.0	66.7	16.7	16.7	0.0	37.5
雇用関連	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	39.3

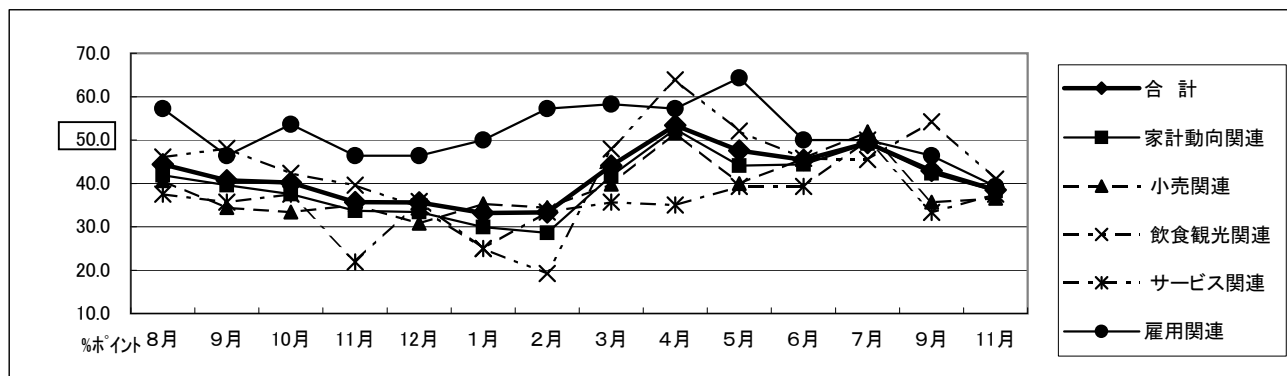
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	4	2.7	27.0	54.1	13.5	2.7	0.0	53.4
	5	0.0	24.4	48.8	14.6	9.8	2.4	47.6
	6	2.6	21.1	44.7	18.4	13.2	0.0	45.4
	7	2.7	13.5	67.6	10.8	5.4	0.0	49.3
	9	5.4	5.4	51.4	29.7	8.1	0.0	42.6
	11							
	(前月差)	(-5.4)	(-5.4)	(-51.4)	(-29.7)	(-8.1)	(0.0)	(-42.6)

表3 D I 値の推移

	2010年						(前月差)
	4月	5月	6月	7月	9月	11月	
合計	53.4	47.6	45.4	49.3	42.9	38.5	(-4.4)
家計動向関連	52.5	44.1	44.4	49.2	42.3	38.3	(-4.0)
小売関連	51.6	40.0	45.8	51.9	35.7	36.6	(0.9)
飲食観光関連	63.9	52.1	45.8	45.5	54.2	41.0	(-13.2)
サービス関連	35.0	39.3	39.3	50.0	33.3	37.5	(4.2)
雇用関連	57.2	64.3	50.0	50.0	46.4	39.3	(-7.1)



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、来客数が少ないや高額商品の買い控えの様子などから「来客数の動き」と「お客様の様子」が46.2%と多くなっています。
 飲食観光関連でも、観光客などの増減から「来客数の動き」が72.7%と高くなっています。
 サービス業関連でも、お客様の減少などから「来客数の動き」が66.7%と大きくなっています。
 次に、雇用関連では、パート求人の増加などから「求人数の動き」が71.4%と高くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	60.0	26.7	36.7	40.0	10.0	6.7
小売関連	46.2	30.8	38.5	46.2	15.4	15.4
飲食観光関連	72.7	27.3	45.5	27.3	0.0	0.0
サービス関連	66.7	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0
	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	71.4	14.3	0.0	28.6	28.6	14.3

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、エコカー補助の終了、円高に加え、エコポイントの縮小等の懸念材料があるものの9月より2.4%ポイント改善して、37.1%ポイントと厳しい状況が少し緩む予想となっています。

内訳は、小売関連で9.8%ポイント、飲食観光関連で1.5%ポイント改善しましたが、サービス関連は、9月に続きさらに12.5%ポイント下げて厳しい予想となっています。

また、雇用関連では、エコカー補助の終了による雇用不安はあるものの、3.6%ポイント上げて39.3%ポイントと厳しさが緩む予想となっています。

表1 11月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	0.0	10.8	40.5	29.7	16.2	2.7	37.1
家計動向関連	0.0	10.0	43.3	23.3	20.0	3.3	36.6
小売関連	0.0	7.7	38.5	30.8	15.4	7.7	36.6
飲食観光関連	0.0	18.2	54.5	9.1	18.2	0.0	43.2
サービス関連	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	25.0
雇用関連	0.0	14.3	28.6	57.1	0.0	0.0	39.3

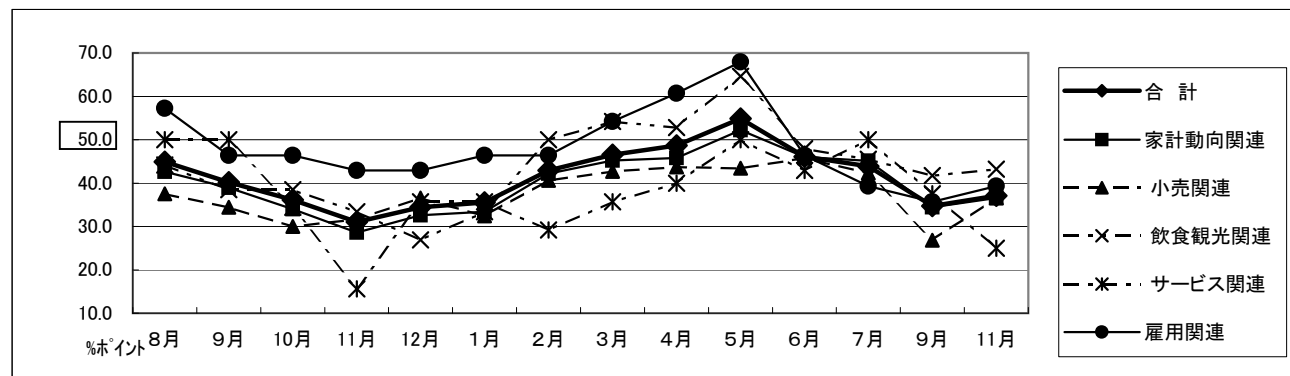
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2010	4	0.0	27.0	48.7	16.2	8.1	0.0	48.7
	5	2.4	36.6	41.5	12.2	4.9	2.4	54.9
	6	2.6	21.1	44.7	21.1	10.5	0.0	46.1
	7	2.7	13.5	51.4	21.6	10.8	0.0	43.9
	9	0.0	7.7	38.5	38.5	15.3	0.0	34.7
	11	0.0	10.8	40.5	29.7	16.2	2.7	37.1
	(前月差)	(0.0)	(3.1)	(2.0)	(-8.8)	(0.9)	(2.7)	(2.4)

表3 D I 値の推移

	2010年						11月	(前月差)
	4月	5月	6月	7月	9月			
合計	48.7	54.9	46.1	43.9	34.7	37.1	(2.4)	
家計動向関連	45.8	52.2	46.0	45.1	34.4	36.6	(2.2)	
小売関連	43.7	43.4	45.8	42.3	26.8	36.6	(9.8)	
飲食観光関連	52.8	64.6	47.9	45.5	41.7	43.2	(1.5)	
サービス関連	40.0	50.0	42.9	50.0	37.5	25.0	(-12.5)	
雇用関連	60.7	67.9	46.4	39.3	35.7	39.3	(3.6)	



景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
	3ヶ月前	1年前					
家 計 動	やや良くなっている	やや良くなっている	道の駅	来客数、販売量の動きとお客様の様子	・地元の方、観光客の方のニーズに応える事で来店回数が増えている。		
			スナック	来客数の動き	・土曜日に仕事のある会社などが増えたりで、金曜日は少しひまです。一ヶ月トータルすると、これから忘年会シーズンなので、やや良くなると思います。		
	やや悪くなっている	悪くなっている	小売店	来客数、販売量の動きとお客様の様子	—		
			旅館	来客数の動きとお客様の様子	・3ヶ月前より秋の行楽で市外からの観光客は増だが、昨年と比べると減、宿泊者が減。		
向 関 連	変わらない	変わらない	小売店	来客数と単価の動き	・昔を思うと、高額商品の出が悪いような気がします。		
			スーパー	お客様の様子	・青果物の高値による買い控えがある様です。		
			スーパー	単価の動きお客様の様子	—		
			ホテル	単価の動き	・単価の低い商品の方が売れる。		
			旅行代理店	来客数の動き	・来店数は少ないです。		
			金融機関	お客様の様子	・建設業においては、公共事業が少なく、民間の設備投資もないことから受注工事の確保に苦戦している。		
			金融機関	お客様の様子	・各事業所は、現状を保つために精一杯の様子、個人の給料も増える事なく、農作物収入は減っている。余裕がないように感じる。		
			福祉施設	来客数の動き	・生活福祉資金の相談件数が一向に減らない。貸付者の就職先がなかなか見あたらない。		
			やや悪くなっている	悪くなっている	小売店	来客数、単価の動きとお客様の様子	—
					小売店	販売量の動き	・買上げが少ない。
					スーパー	来客数、単価の動きとお客様の様子	—
					レストラン	単価の動き	—
					タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず乗客数が少ないです。特に郊外のお客様の乗客が減っている。
			やや悪くなっている	良くなっている	観光案内所	来客数と販売量の動き	・紅葉のシーズンも終り栗きんとん人気も低下してきた。
変わらない	小売店	販売量の動きとお客様の様子		・進物用品等、昨年は3,000円クラスが売れたのに今年は2,000円クラスが主流。			
やや悪くなっている	商店街関係者	電化製品エコポイント最終月です。		・電化製品エコポイント最終月です。			
	商店街関係者	来客数の動き		・年令の高いお客が多いので先行きが不安です。			

			小売店	来客数、販売量、単価の動きと競争相手の様子	—	
			レストラン	来客数、単価の動きとお客様の様子	・引続き客単価の下げが続いている感が有る。	
			旅館	来客数、単価の動き	—	
	悪くなっている		タクシー運転手	来客数、販売量、単価の動きとお客様、競争相手の様子	・お客様の減少。	
悪くなっている	やや悪くなっている		小売店	競争相手の様子	・大型店、小型店に限らず特売価格が下落している。	
			飲食店	来客数と単価の動き	・今月に入ってから人の動きが少ない様な気がする。	
	悪くなっている		商店街関係者	中津川市商業界全体の傾向	・エコポイントの減少による家電売上の減少、大型店を含む全体の売上減少。	
			道の駅	販売量の動き	—	
		理容室	来客数の動き	—		
雇用関連	変わらない	やや良くなっている	職業安定所	求人数の動きと雇用形態の様子	・求人倍率は上昇しているが、臨時求人も多く、数字のような求人意欲の高まりを感じない。	
			労働金庫	勤務形態の変更と時間外労働の変化	・企業によっては生産効率向上のため、勤務形態を変更して24時間稼働とするとところもある。また、時間外（残業）が増加したとの意見もあったが人員を削減したこともあり、一概に業績が向上したことが起因しているとはいえない。	
			労働相談所	求人数の動きと周辺企業の様子	・求人が多くなっているのは、販売・サービス業のパートである。	
		変わらない	学校就職担当	求人数の動き	—	
	やや悪くなっている	やや良くなっている		自治体労働政策担当	周辺企業の様子	・中小企業においては受注量の減少（製造業種）の声が多い。
				学校就職担当	求人数の動き	・二次募集の求人が非常に少ない、新たな求人もほとんどない状況で困っている。
			悪くなっている	人材派遣会社	求人数、求職者数の動きと雇用形態の様子	・景気の先行きが不透明なため、各企業が現在の従業員数について、過剰感がここにきて強くなっている。 ・雇用調整や経費削減で収益を上げている現状下で、ここ当分雇用については明るい兆しはみられない。

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家 計 動 向 関 連	やや良くなる	小売店	—
		道の駅	・スタッフとの連携、コミュニケーションにより、魅力的な店づくりを行っている。
		スナック	・会社員の残業が少しあるようになったということは、仕事が少しでも増えたと思います。
	変わらない	商店街関係者	・回りを見ても、この厳しい景気は変わらないと考えた方が良さそうです。
		小売店	・良くなる訳ではなく、時代が変わったことが、要因だと思います。
		小売店	・通常の商売では売上がのびない。 ・販促企画をからめてやっと客足が伸びるが、費用対効果をクリアできない企画もあり、思案のしどころか。
		スーパー	—
		スーパー	—
		道の駅	—
		レストラン	・今の世の中で良くなる施策が見当たらない。
		飲食店	・地方でなく中央からの良い情報の広がりによる。
		レストラン	—
		ホテル	・経済状況より。
		旅行代理店	・冬で年末なので、多少は買い物がらみのツアーは申込はあるが年が明けたらどうなるか・・・？
		福祉施設	・エコカーやエコポイント制度の終了により、商品の生産数が増えないから。
		タクシー運転手	・このままでは変わりません。自社でも努力していますが、企業だけでなく、町全体でもっと考えることだと思います。
やや悪くなる	小売店	・政治の無策。	
	小売店	—	
	小売店	・政治不安、行政不信。	
	スーパー	—	
	旅館	—	
	金融機関	・建設業界を取り巻く環境に変化はなく、年度末に向って厳しい状況が続くものと思われます。 ・製造業においては、円高の進行あり、受注先が海外シフトを進めており先行きに不安を抱えています。	
	金融機関	・良くなる要因がなく、貯金も切りくずす方向にある。	
悪くなる	商店街関係者	・景気浮揚策もなく、ボーナス等の所得の減少により、デフレに歯止めがかからず、低価格志向が更に強まると考えられるため。	

		商店街関係者	・世の中の景気が悪いので先行きの見とおしがたたない。
		旅館	・忘・新年会は減の上、料理屋より居酒屋へ流れる傾向があり、寒期にて、一層宿泊者は減、春季以降に期待。
		観光案内所	・観光客の減少。 ・市内で開催されるイベントもなく栗きんとんを越える名産品が今の所ない。
		理容室	－
		タクシー運転手	・就職率の低下。
雇用 関 連	やや良くなる	労働相談所	・年末・年始時期は消費拡大が見込めること、昨年と異なり、中小企業も今年は額は少なくともボーナスの支給有り。
	変わらない	職業安定所	・一部好調な業種はあるものの、エコカー補助金の終了、円高、株安など先行き不透明感が強い。
		学校就職担当	・トヨタ関連の企業から、円高で海外に生産をシフトしていく分、来年の採用計画は同じか減少するのではないかと話がありました。
	やや悪くなる	労働金庫	・為替、株価については一定安定してきている感じがあるが、先行き不透明な部分が多く企業にとっては不安材料となっている。また、雇用に関しては、団塊世代の退職が一服感を迎え、企業は適切な人員数に近づき上記理由などから企業側が人員採用に関して慎重な態度を示している。よって、来年度新卒者における就職活動も厳しさが伺える。
		学校就職担当	・経済状況を見ても、何一つ今後、景気がよくなっていくような要因は見うけられない、来年はさらに厳しくなっていくのではないかと。
		人材派遣会社	・クルマ関係にみられる様な”需要を先食いしているだけで”今後はこの反動でさらに落ち込むことが避けられない。 ・企業の景況感は大巾に悪化の一途。
自治体労働政策担当		・中小企業では、良くなっていく要素が少ない。製造業に関しては、受注量の減少が当面続いていくと思われる。	